

## 県立広島大学 学修成果測定・評価の方針（アセスメント・ポリシー）

県立広島大学では、学士課程における卒業認定・学位授与の方針（以下「ディプロマ・ポリシー」という。）に定める学修成果の水準を満たし、全学人材育成目標に掲げる「課題探究型地域創生人材」として社会で活躍できる人材を育成するため、次に掲げる方法により本学学生の学修状況や成長、又は教育プログラムの成果等を多面的に測定・評価し、学生個人に還元して成長を促すとともに、本学の教育活動の改善に活用する。

### 1 評価基準・指標

県立広島大学では、次の(1)及び(2)に掲げる方法により、学生の学修成果及び教育プログラムの測定・評価を行う（測定方法の一覧は表1のとおり）。更に、(3)に掲げる、本学が所有する指標やデータ等と組み合わせることで、学修成果等を多面的に評価する。

表1. 本学が実施する学修成果測定・評価方法の一覧（参考）

	入学時	在学时	卒業時・卒業後
機関レベル (大学全体)	・課題探究型地域創生人材ルーブリック(全学) ・アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリック ・新入生意識調査	・課題探究型地域創生人材ルーブリック(全学) ・アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリック ・学生意識調査 ・外部評価テスト	・課題探究型地域創生人材ルーブリック(全学) ・アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリック ・卒業予定者アンケート ・卒業生アンケート ・外部評価テスト
学位プログラム レベル (学科・コース)		・GPA	・GPA ・卒業生アンケート
科目レベル		・科目成績 ・授業評価アンケート	

#### (1) 「課題探究型地域創生人材」としての成長評価

全学人材育成目標に掲げる「課題探究型地域創生人材」の育成に向けて、次の方法により、ディプロマ・ポリシーの達成状況等を全学生について測定し、成長を評価する。

##### 【毎学期末に実施するもの】

- 単位認定に係る各科目成績評価
- GPA（学期GPA，通算GPA）
- アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリック

##### 【毎年度末に実施するもの】

- 課題探究型地域創生人材ルーブリック
- 汎用的能力測定のための外部評価テスト

表2. 「課題探究型地域創生人材」としての成長評価の概要

測定手法	実施時期・方法	測定内容
単位認定に係る各科目成績評価	成績評価基準に基づき、各科目が定める方法(※)による成績評価を行う。 ※定期テスト・レポート等	各科目における学生の理解・達成度
GPA (Grade Point Average)	各学生が履修した科目について、各学期におけるGPA(学期GPA)、及び在学中における全期間のGPA(通算GPA)を算出する。	各授業科目5段階の成績評価に対応して4～0のグレードポイント(GP)を付与して算出する1単位当たりのGP平均値
アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリック	各学期の期初面談において、「アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリック」の各観点について学生による自己評価を行う。	生涯学び続ける自律的な学修者(アクティブ・ラーナー)として求められる資質・能力
課題探究型地域創生人材ルーブリック	各年度の全授業終了時に、「課題探究型地域創生人材ルーブリック」の各観点について学生による自己評価を行う。	課題探究型地域創生人材として求められる資質・能力
汎用的能力測定のための外部評価テスト	各年度当初のオリエンテーション実施時(※)に「PROGテスト」を実施する。 ※4年生は「地域課題解決研究」「卒業研究」「卒業論文」の履修終了時	3つのポリシーに紐付いた学生のリテラシーやコンピテンシー

(2) 学生・卒業生対象調査に基づく学生の成長及び教育プログラムの評価

次に掲げる各種調査を通じ、本学学生及び卒業生の、入学時から卒業後に至るまでの本学の教育に対する意識を把握し、学修を含む大学での活動全体を通じた個人の成長や、本学の教育プログラム等について評価を行う。

表3. 学生・卒業生対象調査一覧

調査名称	対象者	実施時期・方法	調査項目
新入生意識調査	1年生 (新入生)	時期:各年度前期 方法:オンライン	大学での学修状況, 正課外活動の状況, 大学生生活の状況 等
学生意識調査	2～4年生	時期:各年度前期 方法:オンライン	大学での学修状況, 正課外活動の状況, 大学生生活の状況, 本学への進学理由 等
学生による授業評価アンケート	1～4年生	時期:各学期の授業終了時 方法:オンライン	授業や教員への意見, 授業外学修時間, 学修意欲, 授業に対する満足度 等
卒業予定者アンケート	4年生 (卒業予定者)	時期:各年度後期 方法:オンライン	進路状況, 就職活動への取組状況, キャリア教育に対する意見・満足度 等
卒業生アンケート	卒業生 (卒後3年目)	時期:各年度後期 方法:オンライン	就業状況, 在学中のキャリア教育受講状況, 在学中に習得し職務で役立っている能力 等

(3) その他の指標

本学が所有する教育指標や学生データ等を用い、(1)及び(2)に掲げた評価方法と組み合わせることで、より多面的に教育成果を把握する。

【指標例】

入学試験成績・結果, 資格試験成績, 資格取得状況, 留年・休学・退学状況, 留学状況, 就職・進学状況, 就職先情報

## 2 学生へのフィードバック

学生個人に対する評価は、表4の方法により本人に通知する。

表4. 学修成果の学生への通知方法一覧

通知方法	項目一覧	備考
①成績通知書	科目単位の成績, GPA	学期毎に通知
②外部テスト・資格の結果	受験した各種外部テストのスコア, 資格の証明書 等	PROGテスト, TOEIC等の語学試験, 各専門分野における国家資格 等
③学修ポートフォリオ (けんひろポートフォリオ)	GPAの伸び, ルーブリックの測定値の伸び 等	学期間での成長を可視化
④学位記	学位名称	ディプロマ・ポリシーに掲げる学修水準 の達成の証明

※①及び②は、③においても通知する。

## 3 分析・公表方法

機関全体としての評価結果は、適切な統計処理を施し、個人情報取扱に係る学内規程を遵守した上で学内外に公表する。なお、学内については、必要に応じて詳細な情報を各部局等に公表・提供し、評価結果を教育プログラムの改善等に反映させる。